

旅シリーズ第5弾
編集長ウガジンが行く

江戸時代、幕末の戊辰戦争の舞台となった会津。

会津の歴史が今、2013年大河ドラマの影響でさらなる注目を浴びています。

主人公新島八重のゆかりの地である為、鶴ヶ城はもちろん、会津全体が今、「八重の桜」特別仕様になっているのです。

今回うかがったのは大河ドラマ館。

ドラマがスタートした1月にオープンした場所です。

八重といえば腰にさした刀、スベンサー銃。

私も八重になりきって、

体験コーナーで銃を撃ってみました。銃の重さは4キロ。

持っているだけで左腕がブルブルで、狙うのが大変でした。

銃を持って戦った八重は本当にすごい。

また、戊辰戦争の最中の鶴ヶ城にまるで自分がいるかのようなバーチャル体験ができるエリアもありました。

雨の中の籠城戦を映像で見て、砲弾の音を聞いて、状況がとてもわかりやすく自分の中に入ってきた。

本日はタイミング良く、大河ドラマ館で八重に会いました。

まさにハンサムウーマン。笑顔の素敵なお方でした。

迎えてくださったのはふくしま八重隊の皆様です。

皆様に囲まれ私はドキドキ。

「ずつりと重い銃。
よ~く狙って。」



背筋がピンときれいに伸びた皆様の中で緊張しましたが、それさえ楽しかったです。皆さんも運が良ければ会えますよ!

鶴ヶ城は何度見ても圧巻。私が一番好きなところは、5層にある展望フロアです。

会津の街並みや、遠くには飯盛山の姿も。解説と共に学べます。

そして、関係ないかもしれませんけどなく、偉い人になった気分になります。

変わった景色の中にも変わらない景色があるからこそ、

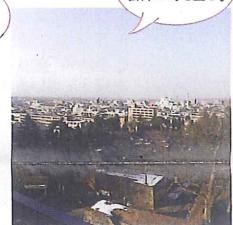
私たちは歴史が別世界のことではないと実感出来るかもしれません。

皆様もぜひのぼってみてください。

鶴ヶ城から会津の町を望む。



「ふくしま八重隊
のみなさんと。
華やかです。」



ちょっと寄り道～腹が減っては… 満田屋さんの会津みそ田楽

かつては味噌蔵だったという店内。明るすぎず、やさしいあかりが灯っておりました。若女将の満田加津美さんに迎えて頂き、カウンター席へ。すぐ目に飛び込んできたのはカウンター内の囲炉裏です。中で燃える炭火に、顔からあたたまります。串にさした素材にぬる味噌は、素材によって異なる4種類。こだわりの味噌だれです。そして、いよいよ炭火であぶられていきます。ガスを使うより時間はかかりますが、炭を貰く満田屋さん。お客様もそれを望む声が多いそうです。そのお気持ち、何となくわかります。待つ時間もとても素敵なものです。創業1834年の満田屋さんは、元はお味噌、お塩の販売のみをされていたそう

です。そんな中、先代の女将さんがお味噌を食べてもらうべくお店の前に囲炉裏を出し、田楽を焼いたところ行列ができ、味噌蔵の改造にいたったということです。私も実際に頂き、行列のわけがわかりました。香ばしく焼けた田楽がすごく美味しいです。お酒のおつまみにも、お食事にも、おやつにもなる田楽。一度足を運んだら、心を驚きにされること間違いなし。おすすめです。

会津の老舗味噌、
満田屋さん。



4種類の味噌を
食材に合わせ、
つけ焼きします。



囲炉裏から立ちのぼる
香ばしい匂いが
食欲をそります。



編集後記

歴史とはなぜこんなにも魅力的なのでしょうか。動機は人それぞれかもしれません、歴史を知ることは、歴史を伝えるための第一歩になる気がいたします。はるか昔の出来事も、建物も、関わった人の気持ちも、大切に人から人に渡していくという積み重ねで受け継いでいくものなのだとということを今回の旅で学びました。勉強になると同時に、楽しい旅です。那須のもうひとつの魅力に、皆様もぜひ浸かってみてください。



那須高原の宿
SANSUIKAKU

山水閣

発行 山水閣だより編集部

〒325-0301

栃木県那須郡那須町湯本206

TEL 0287-76-3180

FAX 0287-76-3080

<http://www.sansuikaku.com>



那須高原の宿 山水閣

www.sansuikaku.com



那須別邸 回

www.bettei-kaijiro.jp



ウェディング TheOne

www.nasu-theone.com